

日彫会報

公益社団法人
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室

TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557

<https://www.niccho.com/> email: jimu@niccho.com

暑さに負けない 熱い思い



初日の会場での集合写真



理事長就任のご挨拶

日本彫刻会理事長 宮瀬富之

今、メディアによるコスミックな時代、そしてヴァーチャルな時代、世界の様々な動向を観ていると、目を背けるわけにもいかず、見て見ぬ振りもできないまま毎朝制作場所に向かっています。しかしながらこうした中で、ただただ造れることの喜びと有難さを痛切に感じながらの日々です。

この度は理事長をお引き受けることになりました。名誉と伝統に輝く本会での就任に際し重責を感じています。理事・役員の先生方はじめ池川直委員長、会務委員の先生方、そして事務局員さん、沈没しないように力一杯に舵取りし、私を支えてくださっている方々に深く御礼申し上げます。特に、コロナ時最盛の期では神戸峰男、山田朝彦両理事長先生には事の大変過大なご苦労があったと推察し、感謝の念に堪えません。これらのことが何事もなく無事のまま成し遂げられたことは両先生の満身の力添えと先人の人達によって、永々と築いてこられた想いが湧き水の如く流れとなつてうまく融合化された結果と見て取れるのではないかと思います。

さて、数年前からいづれの団体公募展を観ても出品者数減、高齢化の加速、さらにコロナ禍から外圧的には物価高の影響もあつて素材の高騰等、社会が大きく変わってきました。今、作家にとって大変厳しい時代の中にあつて、その現実を真摯に受け止め本会発展の為さらなる飛躍に向け活動してゆかねばと思っております。それには時代の流れに呼応し、それなりの改革もやむを得ずと思っています。会員、会友の皆様様の絶大な協力を得て乗り切りたいものです。先人の築いていただいた上にさらなる具象彫刻の発展を目指し、お互いに研鑽に励みたいと願つてやみません。

【私の想い】

作品を極めるという事は作家にとって一生の仕事です。それはその人となりの永い長いトンネルを掘り続けていくことだと思います。それを他人がとやかく言う事はタブーだと思います。ただふとこの辺りで「遊び心」あるいは「冒険心」をと思うのです。だから人目を気にして向こう受けを狙ったり奇をてらう変わったことをやればよいという事ではありません。もしやもう一つの別のトンネルを掘ることによって今迄の自分になかったはっとする作品に遭遇するのではないかという実験的な試みです。駄目なら元に戻せばよい。とにかく若い作家の方々には挑んでほしいのです。先人からの伝統をただただ引き継ぎ追従するだけではなく、今の時代に呼応しながら芸術の多様化のなかで創意工夫をして進んでほしいと思っています。挑みあるのみです。一時の気持ちの切り替えを願っています。冒頭に申し上げましたヴァーチャルリアリティの時代、世界の動向を見ながら進んでいかなければならないとも思います。

2024年度 日本彫刻会総会

第95回通常総会報告

2024年1月28日(日) 14時30分から日展会館において第95回通常総会が開催されました。
出席者正会員158名(内委任状117名) 定款17条の定めるところにより総会は成立しました。

議事

- 第1号議案 2023年度事業報告承認の件
 - 第2号議案 2023年度決算報告承認の件・監査報告
 - 第3号議案 第53回日本彫刻会展覧会開催に関する件
 - 第4号議案 会員資格喪失の件
 - 第5号議案 会員状況承認の件
 - 第6号議案 役員改選の件
 - その他の件
- 各議案とも異議なく承認されました。

報告事項

- 1 2024年度事業計画の報告
- 2 2024年度予算の報告
- 3 役員退任の報告
- 4 委員改選の報告
- 5 新運営委員及び新無審査会員の報告
- 6 内規変更の報告
- 7 第53回日彫展審査員の報告
- 8 第53回日彫展会友推挙選考委員の報告
- 9 第16回日本彫刻会新鋭選抜・受賞作家展準備状況の報告
- 10 その他の報告

高齢者会員祝賀

数え90歳を迎えられる正会員の山瀬晋吾先生、島田恭宏先生に賀詞と記念品が贈呈されることが報告されました。

慶事

第10回日展(令和5年度)
文部科学大臣賞
『青春の詩「祈り」』
嶋畑 貢先生

第10回日展(令和5年度)
東京都知事賞
「わ」
九後 稔 先生

第10回日展(令和5年度)
日展会員賞
「singing figure V」
宮坂 慎司先生

第53回日本彫刻会展覧会報告

- ①会期 令和6年4月18日(木)～5月2日(木)
- ②会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C
(東京都台東区上野公園8-36)
- ③陳列点数 252点(写真展示含む336点)

〈内訳〉

正会員 188点
会友 22点
遺作 1点

無鑑査(一般応募) 1点
鑑査(一般応募) 28点うち初入選 14点
U-20(一般応募) 12点ほか写真展示 84点

④審査員
特別賞審査員 関根秀一氏 土方明司氏
日本彫刻会理事
審査員長 宮瀬富之

能島征二 池川直 谷口淳一 加茂為男
中原篤徳 堀龍太郎 伊庭靖二
二塚佳永子 廣川政和 井上周一郎
市村成保 桑原秀栄 田村晴江
(以上14名)

⑤会友推挙選考委員
谷口淳一 堀龍太郎 伊庭靖二
二塚佳永子(以上4名)

⑥受賞者
西望賞 紺谷武
文部科学大臣賞 小野啓亘
東京都知事賞 東誠
会員賞 問島博徳

日彫賞 柴田茜 竹内晋平
優秀賞 細川大潤 松宮紀代 橋本和成
新人賞 田畑智功 内藤千尋 野添浩一
U-20日彫賞

河端岳人 谷和奏 布目琴弓

U-20優秀賞

浅川悠 河野悠月 小嶋勇矢 竹中綴染
竹中夢治 谷村七海 辻本彪汐 戸井耀人
西村虎将 (以上24名)

⑦会友推挙・正会員推挙

正会員推挙 岩館由美子 加藤史郎 紀平佳代
橋本和成 野添浩一 牧田法子

(以上6名)

会友推挙 坂本欣子 田畑智功
村田由美 和田元子

(以上4名)

⑧入場者数 8,285名(前回8,380名)

(内訳)

一般 199名

東京都美術館特別展半券 1,259名

招待状 4,650名

出品者 942名

障がい者手帳をお持ちの方 131名

付添者 92名

日本美術家連盟他 122名

65歳以上、大学生以下 462名

パスポート 428名

⑨開会式

日時 4月18日(木) 11時30分から

会場 東京都美術館ギャラリーC

⑩表彰式

U-20受賞者対象

当番の会員、(日彫友の会 ほか)

b 盲学校鑑賞教室

4月23日(火) 筑波大学附属視覚特別支援学校

(高校生18名 教員6名)

〈鑑賞支援対応〉

担当会員・会友

(日彫友の会 ほか) 青松利明 酒井華 須惠三樹

4月26日(金) 宅間紗矢 内藤千尋 半田こづえ

(中学生3名、教員2名)

4月26日(金) 東京都立久我山青光学園

(中学生25名、教員14名)

4月26日(金) 筑波大学附属視覚特別支援学校

(小学生19名、教員5名)

〈鑑賞支援対応〉

担当会員・会友

(日彫友の会 ほか) 板橋勝太郎 若原聖奈

(日彫友の会 ほか) 板橋勝太郎 若原聖奈

⑮彫刻鑑賞解説会(ギャラリートーク)

第53回日彫展において、ギャラリートークを実施した。

日時 期間中毎日

(彫刻研究会第1部当日、最終日を除く)

会場 東京都美術館ギャラリーA・B・C

実施通算参加者 約165名

実施通算参加者 約165名

実施通算参加者 約165名

⑯図録作成

本会が開催する彫刻展覧会の図録を作成した。

第53回日彫展図録

4月20日(土) 発行 900冊

通算参加者 11名(うち引率者3名)

〈鑑賞支援対応〉

◇第6回U-20日彫展

2019年より企画展「U-20日彫展」集まれ！未来の彫刻家」を開催しています。第6回目を迎える本年は、応募総数が約150点となりました。20歳以下の方々の彫刻作品の発表の場として徐々に周知されつつあります。

本会では、新しく瑞々しい感性を有する20歳以下の方々の作品を紹介するとともに、次世代へと彫刻芸術のバトンを繋げてまいります。

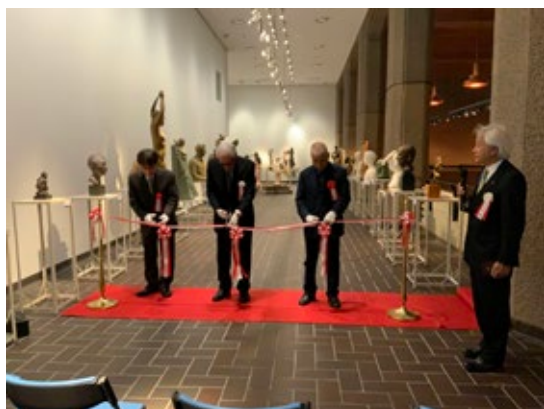
〈U-20対応〉

小橋暁子 武本大志 奥平陽和

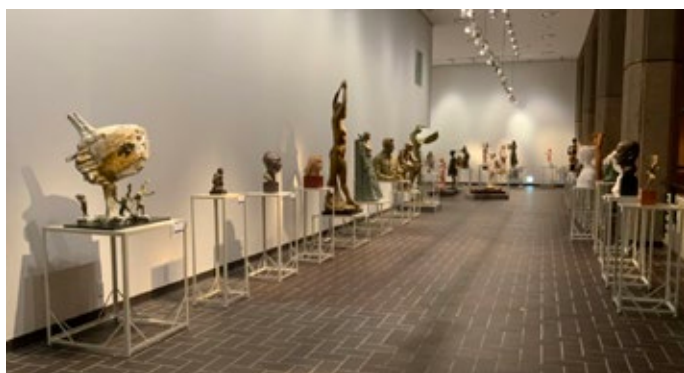
〈U-20部〉

鈴木紹陶武 音羽久美子 町野紗恭 宮地淑江

丹羽俊輝



開会式でのテープカット



会場風景 陳列総数 336 点 (U-20 写真展示込み)



彫刻研究会で自作を解説する会員



ギャラリートークの様子



U-20 展示風景 陳列点数 96 点



彫刻に触れる鑑賞支援活動

◇受賞者の声

西望賞 紺谷 武「魔女」

シェイクスピアのマクベスに登場する三人の魔女、そのうちの一人をイメージして作りました。魔女がマクベスを見つめ未来を告げる表情や、魔女を取り巻く雲霧がさまざまに形を変える様子をきっかけに鑑賞していただければ幸いです。



文部科学大臣賞 小野 啓亘「明日の私がなんとかする」

過去を悔いたり懐かしんだりしても仕方がない。
未来を憂いても意味がない。
今を精一杯生きること。

明日は…、
明日の私がなんとかする！



東京都知事賞 東 誠「斜」

傾斜した地面に立つ時、人は重心を移動させたり腕を動かしたりしてバランスを取ろうとする。無意識にともしなやかに。その自然な動きに何か面白みを感じ作品にしてみようと思いました。制作を始めてまもなく能登に地震がありました。平坦ではない境遇に置かれても希望を持って生きていこう。そんな気持ちも込めました。



会員賞

間島 博徳「木漏れ日の記憶―Shape C Ⅱ」

アルファベットのCを元に、光を造形の要素に加えると、上部に穴を空け、鳥の大きさを変化させることで成長の過程も表現し絵巻物のようなイメージも試みてみました。

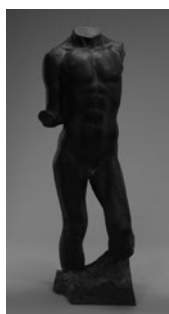
記憶というタイトルを付けることで様々な思いを込めました。



日彫賞 柴田 茜「ゆりかご」



日彫賞 竹内 晋平「樹影」



優秀賞 細川 大潤「祈望」



優秀賞 松宮 紀代
「夢三夜 めくもりに包まれる」



優秀賞 橋本 和成「繋ぐ」



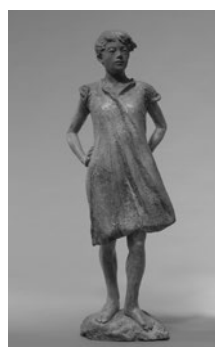
新人賞 田畑 智功「想いをこめて」



新人賞 内藤 千尋「春、高揚」



新人賞 野添 浩一「south wind」



U-20日彫賞

河端 岳人

「天翔ける神獣」

(11歳)

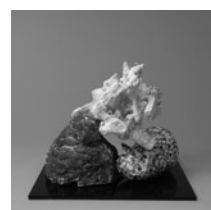


U-20日彫賞

谷 和奏

「あまやどり」

(9歳)



U-20日彫賞

布目 琴弓

「おちゃめ」

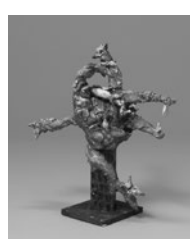
(17歳)



U-20優秀賞

浅川 悠

「魔法怪獣」(8歳)



U-20優秀賞

河野 悠月

「アライグマのくーちゃん」

(17歳)



U-20優秀賞

小嶋 勇矢

「4月1日」

(19歳)



U-20優秀賞

竹中 綴楽

「ガムシ」

(8歳)



U-20優秀賞

竹中 夢治

「子負い虫の子守り」

(10歳)



U-20優秀賞

谷村 七海

「おかえり」

(14歳)



U-20優秀賞

辻本 彪汐

「龍」

(12歳)

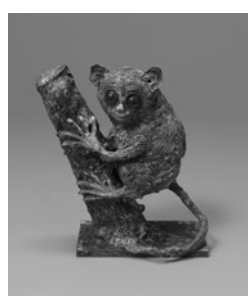


U-20優秀賞

戸井 耀人

「森の妖精」

(14歳)



U-20優秀賞

西村 虎将

「考えすぎたカメレオン」

(13歳)



第53回日彫東海展

会期 2024年6月5日（水）～6月9日（日）

会場 愛知芸術文化センター8階ギャラリー

陳列総数 98点（巡回作品 61点）

入場者数 1,514名

愛知県知事賞

中日賞

東海テレビ賞

東海日彫会奨励賞

東海日彫会奨励賞

東海日彫会新人賞

東海日彫会新人賞

「翼」 櫻井真理

「刻」 元田木山

「懷Ⅱ」 加藤真浩

「Lose track of time」 佐藤徹

「パンジーは目を伏せる」 田原迫華

「遊山」 黒田雅大

「Harry」 藤野十至



授賞式並びに祝賀会の様子



彫刻研究会の様子

6月4日（火）に搬入、陳列作業を行い、先生方のご指導のもと、今回よりレイアウトを大きく変更し、より鑑賞しやすい展示を目指しました。東海展の賞に關しまして、今回は、東海日彫会奨励賞と新人賞が各2点授与され（昨年までは各1点）見応えある東海展となりました。その後同会場10階のウルフギヤングバックにて宮瀬理事長、池川直委員長をはじめ審査員や巡回指定の先生方も遠方よりご参加頂き、共催者の中日新聞社、東海テレビ放送、後援者、来賓をお招きして表彰式並びに祝賀会を開催致しました。東海地方のU・20受賞者や保護者も参加され、盛大に執り行われた会は、和やかなひと時となりました。

5日（水）展覧会初日の10時半より行われました彫刻研究会には、京都より宮瀬理事長に再度お越し頂き、東海日彫会山本会長、神戸副会長による彫刻研究会は、一般来場者含めて約40名が参加致しました。東海展受賞者を中心に自作の解説と先生方によるご高評は、とても緊張感がある会となり、日本の彫刻史、円空、木喰の話など、一般の方も聞き入る内容で、参加した会員もメモを取るなど充実した研究会となりました。頂いたお言葉をそれぞれの会員が今後の制作に落とし込める事でより素晴らしい作品となる事が期待される研究会となりました。

8日（土）午後2時より行われた、触れて観る彫刻展鑑賞教室は、視覚障害者が4名、付き添い、引率の学生含め11名が参加されました。また、9日（日）も問い合わせがあり、視覚障害者4名、付き添い合わせて9名の方が参加され、その日以外にも2名の視覚障害者の方に

鑑賞して頂きました。アンケートにて、これまでに3回以上参加されているリピーターの方や、今回初めて参加された方もみえ、「また参加したい」「来年もまた来ます。」との声を頂戴致しました。

現在地方展の在り方が問われております。作家としての様な事が出来るのか、何をすべきなのか、東海より考えてまいります。

東海展開催に際して多くの日彫会会員の皆様に、ご理解とご協力頂いております事に改めて感謝と御礼申し上げます。

（東海日彫会事務局）



触れてみる彫刻展の様子

第53回日彫北陸展

会期 令和6年6月20日（木）～6月24日（月）

会場 富山県民会館美術館

陳列点数 100点

北陸日彫会賞 「想いをこめて」 田畑 智功

富山新聞社社長賞 「Memory」 川向 京子

第53回日彫北陸展は会期前日の6月19日に搬入陳列を行いました。同日、各団体代表、各報道機関代表等の列席のもと開会式を執り行いました。開会式では宮瀬理事長、村井会長、富山新聞社代表の挨拶、富山県代表、富山市代表のご祝辞があり、北陸展受賞の表彰式も行いました。

続いて村井北陸日彫会会長の司会進行で来賓も交えてギャラリートークを行いました。宮瀬理事長も自作について語られ、参加者は制作に向かう姿勢や心構えを聞き感動しました。また、受賞者によるトークもあり参加者は有意義な時間を過ごしました。

会期内企画として富山県立富山視覚総合支援学校生徒作品17点を展示するとともに21日には同校生徒・教員・関係者40名を招いてタッチツアーを開催し、触れて見る彫刻鑑賞を大いに楽しんでいただきました。この模様は富山新聞・NHK富山放送局にも大きく取り上げていただきました。

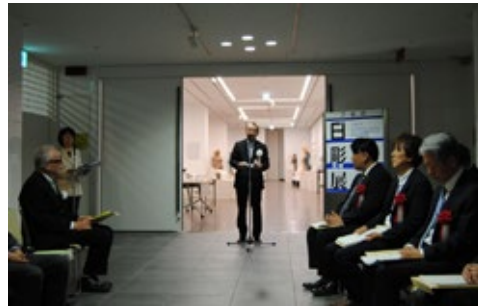
22日は「親子ふれあい彫刻教室」と題したワークショップを行いました。9家族20名の参加者が思い思いの形を粘土で造形し、彫刻を身近に感じていただけました。会期を通してU-20日彫展入賞者12名と共にU-20日彫展北陸地方出品入選者31名の作品も展示しました。

北陸日彫会特別企画「発想展」も同時開催し、彫刻が完成するまでのデッサンや小型を展示しました。一般の鑑賞者は普段見ることが出来ない内容が展示されていたので興味を持って鑑賞されているようでした。富山県内の愛好者や北陸会員のお知り合いに多数来場していただくと共に、富山県立富山視覚総合支援学校関係者、U-20日彫展関係者等にもたくさん来場していただきました。近年では最多の入場者数でありました。

（北陸日彫会 富山県事務局）



開場式後のギャラリートークの様子



開会式の様子



富山視覚総合支援学校タッチツアー



ワークショップの様子

第16回日本彫刻会

新鋭選抜・受賞作家展

2024年7月21日（日）～8月3日（土）まで、銀座のギャラリー青羅にて「第16回日本彫刻会 新鋭選抜・受賞作家展」が開催されました。

今年は20代の若手作家や本展での受賞者、新審査員の先生など合わせて23名の作家による作品が出品されました。会期中に、「作品を語る会」や懇親会も開催され、作家たちの交流の場となりました。



会場の様子

石膏、樹脂、陶、木、漆、紙など多岐にわたる素材の作品が並び、本展での作品制作のエッセンスや本展では見られない表現内容など各作家のバラエティーに富んだ作品が陳列されました。

「作品を語る会」は初日の16時より行われました。出品者以外にも、会務委員の先生方や各作家の知人、友人、作家仲間など、沢山の方に集まって頂き、活気に満ちた語る会を開催することができました。

同企画は出品者の武本大志会員の司会で進められました。出品者により、出品作に込められた制作意図や制作過程での苦労話が語られました。それぞれ、理想的な制作環境がない中でも工夫を凝らして制作をしており、制作時間の確保や環境作り、そして作品についての考え方について語り合いました。互いの経験から多くの学びを得る機会となり、今後の制作に活かせる有用な情報やアイデアを得ることができました。語る会の後半には、会務委員の先生方が駆けつけてくださり、作品の公表をしていただきました。先生方の長年の経験に基づいたアドバイスをいただき、大変有意義な時間となりました。

昨年度に引き続き、今年も小品展示、販売を行いました。販売を目的とした作品ということもあり展示用の作品とは違い、かわいらしい作品が多く展示されました。親しみのもてる動物やカラフルな建物がモチーフの作品もあり、各作家の新たな一面が垣間見える展示となりました。作品を購入していただくことの難しさを改めて感じながらも、数点の作品を購入していただき、出品者のモチベーション向上につながっています。興味深そうに展示を見て回る来場者の姿もあり、作品販売は、一般の方にも彫刻を身近に感じてもらうよいきっかけとなると思います。



搬入の様子



小品作品の展示・販売



初日の作品を語る会の様子



最終日終了後の出品者の集合写真

会期中は連日暑い日が続いていましたが、夏休み期間中ということもあり、会場の周りではとてもたくさんの方が往来していました。親子連れや外国人観光客の姿も多く、通りがかりに立ち寄ってくださる方もいらつしました。来場者の多くは、気に入った作品を写真に収めていました。昨今は、SNSの普及により作品鑑賞のあり方が変化しています。写真を通して作品が多くの人目に触れる機会が増えていることは、作家としてもありがたいことだと感じています。今後は、より多くの人に直接会場に足を運んでいただき、実際に作品を鑑賞してもらえそうな工夫を進めていき、新鋭選抜・受賞作家展をさらに盛り上げていきたいと思っています。

第16回 日本彫刻会 新鋭選抜・受賞作家展 作品一覧



「さざ波が返すように」
浮森 夕葉



「停止線」
市村 成保



「蝶々」
秋田 美鈴



「少年のように」
窪 信一郎



「物語のように」
音羽 久美子



「黄昏」
奥平 陽和



「MUSE」
佐藤 励



「あまやどり」
小橋 暁子



「雨と花と、にわとり（うめちゃんの羽は水を弾く）」
高野 浩子



「可惜夜」
白石 恵里



「ゆらぎ」
志村 広子



「おひるね」
柴田 茜



「一番星」
田原迫 華



「長屋暮らしⅡ」
田村 さつき



「ぬっぺふほふ」
武本 大志



「渦」
町野 紗恭



「ボストンテリア」
東 耕平



「手」
橋本 和成



「スタイとあこがれ」
村上 佑介



「海ってどんなのかしら？」
宮地 淑江



「ひだまり」
水野谷 憲郎



「小さな勇者」
山本 将之



「予告」
山田 雅英

追悼 川崎普照先生を偲んで

公益社団法人日本彫刻会常務理事

能島征二



本年5月31日、川崎普照先生がご逝去されました。今年の4月に開催された第53回日彫展で、川崎先生の「頭像」が出品されておられましたのに、その突然の訃報に驚きと沈痛な思いに包まれています。

川崎先生は、昭和6年5月に東京都北区で生まれ、戦前・戦後の困難な時代を生き抜きました。高校卒業後、家庭の事情で大学進学を断念しましたが、昭和30年頃、平瀬田中先生の木彫の彩色を手伝ううちに彫刻に興味を持ち、昭和34年（28歳）に太平洋美術学校に入学し、彫刻の道に進みました。

その後、義父である彫刻家 平野敬吉氏（日展会員）のもとで、本格的に彫刻を学び、昭和35年（29歳）で日彫展に初入選、翌年は日展に初入選。その後も意欲的に制作し、昭和39年（33歳）、第7回日展で「特選」に輝きました。

それ以降も精力的に作品を発表し続け、昭和43年（37歳）、日展の審査員に初選出され、翌年日展会員に就任されました。川崎先生は、ご両親が茨城県ひたちなか市出身である関係から、昭和49年（43歳）頃より、茨城県美術展（県展）に

会員として出品、今日まで休むことなく作品を発表していただきました。この彫刻は、現在JR赤羽駅西口に設置されております。

平成5年（62歳）、第25回日展において、男子の群像「未来への讃歌」を出品し、「内閣総理大臣賞」を受賞されました。平成7年（64歳）、東京都北区から区民文化賞を受賞し、平成10年（67歳）には第29回日展の出品作「大地」に於いて、日本芸術院賞を受賞されました。その後、平成16年（73歳）、日本芸術院会員に就任。日展常務理事や、日本彫刻会の理事長を務められました。

茨城県においても同年、茨城県特別功績者として表彰されており、これらの業績により、平成19年（76歳）、旭日中綬章を受章されております。

「自然の造形物の中では、人体が最も美しく偉大である。」と川崎先生は語られていました。

川崎普照先生の彫刻は、卓越した写真力によって、均整のとれた人体彫刻を制作する。若干の理想化を加えながらも、忠実に日本人モデルの人体を写しとった作品は、飾らない、それでいて健全な肉体美を感じさせる。デッサンに徹底したこだわりを見せ、これを基礎として真摯に写真を追及し続けている。と、評論されております。

最後になりましたが、天国で安らかに永眠され、私たち彫刻家を見守りください。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌



「春愁」

（弔辞より抜粋）

障がいの有無を超えてアートに触れる クラウドファンディングでの挑戦

本年度、日彫会では二度目の試みとなるクラウドファンディング「アートの力は壁を超える！子供たちの作品がつむぐユニバーサルな美術館」に挑戦しました。この取り組みの一環として、第53回日本彫刻会展覧会において、視覚特別支援学校に通う子どもたちの作品を展示しました。

本企画にあたり、本会の会員が実際に視覚特別支援学校に出向き、子どもたちとともに作品制作を行いました。昨年度よりも活動の範囲が広がり、幼稚園から高等部にかけて、人体や動物をモチーフとした15点のテラコッタ作品が並びました。

視覚特別支援学校での授業では、子どもたちの手跡がそのまま残り、そして完成後も作品に触れて鑑賞できることを考え、「心棒を用いたテラコッタ制作」を題材としました。また、心棒を制作に取り入れることで、目の不自由な子どもでも触覚を通して空間構成のイメージがつきやすくなります。

昨年度での経験を活かし、焼成中の割れをできるだけ防ぐために心棒の構造を改良し、工夫を重ねました。



▲会場での展示風景

現場では、子どもたちが楽しみながら制作に取り組む姿を目にすることができました。子どもたちは手で粘土の感触や温度を感じ、時には自分自身でポーズを取りながら形を確め、作品を作り上げていました。試



▲学校での授業の様子

行錯誤を重ねながら理想の形を追求するそのこだわりは、作品の細部にまで表れています。完成した後の触れる鑑賞会でも、焼成による素材の変化や自分が作った形を手で感じていました。

ある弱視の子どもは完成した作品を目の前にし、作品がよく映える方向まで考えていました。作品にこもった子どもたちの思いに添えるためにも、作品に触れやすい展示空間を目指しました。

本年度は展覧会会期に合わせてクラウドファンディングを実施し、4月1日から5月31日の期間で目標金額を達成することができました。また、同時に開催されたU-20も84点が入選し、受賞作品12点が会場に展示されました。子どもたちの作品が一堂に並び、触れる鑑賞教室も含め、子どもたちに向けた活動が確実に広がっています。これらの活動を通じて、子どもたちには障がいの有無に関わらず、アートに触れてほしいと考えています。今後も、国内外に向けて彫刻芸術の触覚的な魅力を広く発信できればと考えています。

(町野紗恭)

訃報

左記の方が逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

顧問	川崎 普照 先生	令和6年5月
正会員	神山 美登里 先生	令和6年4月
正会員	野島 耕之介 先生	令和5年11月

編集後記

◆先の能登半島地震で被災されました皆様方には心からお見舞い申し上げます。復興半ばかと思いますが、一日も早く普段の生活を取り戻せますようお祈り申し上げます。

◆今回は裏表紙のカラーを活かしクラウドファンディングのお礼ページとしました。支援していただいた方、また応援していただいている方へお渡しする際にご活用いただければと思います。

出版・広報委員(五十音順)

加藤 真浩 (カトウ マサヒロ)
高野 浩子 (コウノ ヒロコ)
柴田 茜 (シバタ アカネ)
高野 眞吾 (タカノ シンゴ)
田丸 稔 (タマル ミノル)

(主任)

日彫会報 No.83

令和6年10月31日発行



2024 年度日本彫刻会
クラウドファンディング



目標達成!!

たくさんのご支援
誠にありがとうございました



公益社団法人 日本彫刻会



アートの力は壁を越える！

子供たちの作品がつむぐユニバーサルな美術館

2024 年第 53 回日彫展では、触れる鑑賞教室に加えて、
昨年に引き続き盲学校・視覚特別支援学校の子どもたちの作品を展示しました。

また 2019 年より開催してきた「U-20 日彫展」は今年で第 6 回展を迎え
年々応募総数は増え、今年は 150 作品近くの応募がありました。

このプロジェクト実現のために実施したクラウドファンディングでは、
30 名の方々に、総額で 600,000 円ものご支援をいただきました。

皆様からの温かいご支援に、心より厚く御礼を申し上げます。

2025 年、次回の展覧会でも、
より多くの触れる彫刻作品が集まり、充実した「触れるアートの場」
未来の作家を応援し続ける「U-20 日彫展」が作れるよう尽力してまいります。
引き続き温かいご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

<https://camp-fire.jp/projects/738368/view>

CAMPFIRE 日本彫刻会



クラウドファンディングの詳細は
左記 QR コードからご覧ください！